

報道各位

令和2年8月4日(火)
一般財団法人ワンアース
[TEL:090-9230-8586](tel:090-9230-8586)

東北復興宇宙ミッションについて

東日本大震災からの復興 10 年の姿と感謝の気持ちを全世界に伝えるための宇宙ミッションが実現に向けて動き出した。

被災各自治体をメンバーとする東北復興宇宙ミッション実行委員会(山崎直子委員長、事務局・一般財団法人ワンアース)は、広く一般市民に参加を呼びかけ、復興10年を物語る写真等を集めて国際宇宙ステーションに打ち上げ、2021年3月を期して船内に展示する予定。また、滞在中のJAXA宇宙飛行士が世界への感謝のメッセージを読み上げる予定。復興庁の助成(*)とJAXAの協力のもと、この事業は復興のみならず、宇宙開発の社会的・文化的価値を問う試金石としても期待できる。

(*)復興庁「東日本大震災発災10年復興発信事業」

【事業の計画】

東日本大震災の記憶と復興10年のイメージを語る「写真等」「記念品」「感謝の言葉」を国際宇宙ステーション(以下ISS)に打ち上げる。被災した自治体すべてに参加を呼びかけている。

写真等は横断幕に高密度印刷され、ISSの日本実験棟「きぼう」内に展開する。JAXA宇宙飛行士がその前に立ち、世界への感謝のメッセージを読み上げる。この動画を2021年3月11日を目途に全世界に公開する。

一方、被災各地からの記念品(花や農作物の種等)を打ち上げる枠も用意する。これらは地上帰還後、各地で横断幕とともに、地域活性化や産業創生、そして震災の記憶と教訓の伝承に息長く活用する。

【主なスケジュール】

2020年9月末: 自治体ごとにフライトする写真準備

2020年11月末: 自治体ごとにフライトする記念品準備

2020年12月中: 自治体ごとにメッセージ収集

2021年2月頃: 横断幕は宇宙へ

国際宇宙ステーションでJAXA宇宙飛行士が感謝のメッセージ動画を撮影(予定)

2021年3月11日: 感謝のメッセージ動画世界公開へ

2021年3月頃: 記念物品が宇宙へ

2021年4月: 横断幕、記念品とも地上帰還(太平洋着水)

2021年7月: 物品日本帰国、以後各地で復興および地域振興に活用

【実施体制】 敬称略・順不同

委員長 山崎直子(宇宙飛行士・一般財団法人ワンアース名誉顧問)

委員 水上信宏(洋野町長)、遠藤譲一(久慈市長)、寺澤薫(七ヶ浜町長)、山田司郎(名取市長)、菊地啓夫(岩沼市長)、立谷秀清(相馬市長)、門馬和夫(南相馬市長)、吉田数博(浪江町長)、宮本皓一(富岡町長)、松本幸英(檜葉町長)、木幡浩(福島市長)、佐藤金正(川俣町長)ほか…今後追加(約40自治体)

特別委員(復興に協力する全国の自治体) 渡辺英子(山梨県北杜市長)、大石弘秋(高知県仁淀川町長)、坂本浩之(福島県三春町長)、守本憲弘(兵庫県南あわじ市長) ほか

事務局長 長谷川洋一(一般財団法人ワンアース代表理事・きぼうの桜計画代表)

特別協力 三陸鉄道株式会社、一般社団法人槌音(大槌町)、日本宇宙少年団福島分団(福島市)

【お問い合わせ】 一般財団法人ワンアース 代表理事 長谷川洋一

Mail: hasegawa@the-one-earth.org HP: <http://www.the-one-earth.org/jp/>

〒301-0003 茨城県龍ヶ崎市平台4-20-6 TEL: 09092308586

参加表明自治体(2020年8月3日現在)

東北復興宇宙ミッション実行委員会

委員長	山崎直子	宇宙飛行士、一般財団法人ワンアース名誉顧問
委員	水上信宏	岩手県洋野町長
委員	遠藤譲一	岩手県久慈市長
委員	寺澤 薫	宮城県七ヶ浜町長
委員	山田司郎	宮城県名取市長
委員	菊地啓夫	宮城県岩沼市長
委員	立谷秀清	福島県相馬市長
委員	門馬和夫	福島県南相馬市長
委員	吉田数博	福島県浪江町長
委員	宮本皓一	福島県富岡町長
委員	松本幸英	福島県檜葉町長
委員	佐藤金正	福島県川俣町長
委員	木幡 浩	福島県福島市長

委員は今後追加（参加各市町村長）約40自治体

特別委員	渡辺英子	山梨県北杜市長（きぼうの桜苗元）
特別委員	大石弘秋	高知県仁淀川町長（きぼうの桜苗元）
特別委員	坂本浩之	福島県三春町長（きぼうの桜苗元）
特別委員	守本憲弘	兵庫県南あわじ市長

事務局長 長谷川洋一 一般財団法人ワンアース代表理事

特別協力 三陸鉄道株式会社
一般社団法人槌音（岩手県大槌町）
日本宇宙少年団福島分団

助成 復興庁（東日本大震災発災10年復興発信事業）
後援 文部科学省（申請中）

協賛 募集中（民間企業等）

実行委員長 山崎直子宇宙飛行士からのメッセージ

東日本大震災から十年という大きな区切りを迎えるにあたり、私たちは「東北復興宇宙ミッション」を立ち上げました。

国際宇宙ステーションから全世界へ、復興の今の姿と、これまでの御支援に対する感謝の気持ちを発信する計画です。

すでに多くの東北の自治体や被災者の皆さんの賛同を得て動きだしていますが、この事業を歴史に残るものにしていくためにも、オールジャパンでのさらに多くのご賛同、ご協力をいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ここに至る経緯(きぼうの桜計画)

一般財団法人ワンアースは震災以来、被災三県の各自治体とともに「きぼうの桜計画」を進めてきた。

きぼうの桜計画とは、若田光一宇宙飛行士とともにその種が宇宙を旅した日本各地の巨大桜(山高神代桜、三春滝桜、ひょうたん桜等)の直系子孫樹(宇宙桜)を津波到達点上に植え、千年風化しない避難の目印として、そして宇宙からも見える復興のシンボルとして未来に残す事業。2020年3月までに14都市で植樹が完了し、今後、全被災都市(約40)への植樹を目指している。

その過程で醸成された被災地ネットワークに基づき、2017年から毎年持ち回りで「きぼうの桜サミット」を開催し、未来の地域創生のための広域交流を続けている。

このサミットで協議してきた結果、2021年3月、復興10年という節目に、世界中から戴いたこれまでの支援に対する感謝の気持ちを国際宇宙ステーションから発信しようという気運が盛り上がり、このたびJAXAの協力を得て実現に向けて動き出した。

きぼうの桜サミットを通じて積極的に広域交流を進めてきた自治体の首長らが発起人となり、ワンアースの名誉顧問である山崎直子宇宙飛行士が委員長となり、被災三県沿岸の全自治体と福島県内陸の自治体に呼びかけ参加を促している。

【宇宙桜とは】2008年に有人宇宙システム株式会社(JAMSS)が行った宇宙文化事業「花伝説・宙へ!」により誕生した桜。日本各地で少年少女らの手によって集められた千年級の名桜(山高神代桜、三春滝桜、根尾谷淡墨桜、醍醐桜、ひょうたん桜、角館武家屋敷枝垂桜など)の種が、若田光一宇宙飛行士とともに国際宇宙ステーション「きぼう」に8ヶ月半(2008.11/15から2009.7/31)滞在し、地球帰還後にそのごく一部が発芽して「宇宙桜」が生まれた。同事業を発案した長谷川洋一(当時JAMSS企画課長)が、2015年に一般財団法人ワンアースを設立し、以後、宇宙桜を活用した復興や地域振興に専念している。宇宙桜の苗は現在でも稀少だが、ワンアースの呼びかけに応え、苗元各地は東北復興のために苗の贈呈準備をしている。